

健康♪外来ニュース

B型肝炎・C型肝炎

No. 16 令和2年8月15日

進歩した肝炎の治療

B型肝炎：35歳未満では、自然寛解する可能性を考えて経過観察する。35歳以上で肝炎の進行を疑う例やHBV量が多い例では、核酸アナログ製剤(バラクルド、テノゼット、ベムリディ等)を内服する。HBVは駆除できないが、HBV量を減らし、肝炎を鎮静化させ、肝がん発生を抑制するために、長期間内服を続ける。

C型肝炎：直接作用型抗ウイルス薬(DAA)(ハーボニー、マビレット、エプクルーサ等)を2～3ヵ月間内服すると、HCVを100%近く駆除できる。

B型C型とも、肝炎治療医療費助成制度を利用して、月1～2万円の自己負担で治療できる。肝がん予防目的の助成のため、肝がん合併例には適用されない。

肝炎ウイルスに感染していませんか？

日本で約400万人(国民100人中3人)が感染している肝炎ウイルス。厚労省は2013年「知って、肝炎プロジェクト」を発足させ、国民が正しい知識を持って、肝炎ウイルス感染に早く気づき治療することを提唱しています。

肝炎ウイルスに感染しているかどうか調べたことのない方は、これまで肝機能異常がなくても、一度、当院の肝臓外来(火、水、第1,2週土曜日)を受診して、血液検査と腹部エコー検査を受けることをお勧めします。

B型肝炎：母子感染や3歳までに血液を介してB型肝炎ウイルス(HBV)に感染すると、免疫力が未熟なためにHBVを排除できず高率に持続感染(キャリア化)する。その後、多くは肝機能に異常のない無症候性キャリアで経過するが、約10%が慢性肝炎、肝硬変へ進展する。成人では感染しても、免疫があるので多くは持続感染しない。HBs抗原(+)がHBVに感染していることを示す。HBVに曝露された時は、48時間以内に免疫グロブリン(HBIG)とHBワクチンを投与して感染を阻止できる。2016年から幼児にHBワクチンの定期接種が始まった。

C型肝炎：血液を介してC型肝炎ウイルス(HCV)に感染すると、成人でも免疫が十分に機能せず、約70%が持続感染(キャリア化)して、20～30年の経過で慢性肝炎、肝硬変へ進展する。HCV抗体(+)がHCVに感染している可能性を示す。曝露時にHCV感染を阻止する免疫グロブリンやワクチンはない。

知って、肝炎?

消えたはずの肝炎ウイルスが再出現することがある

過去に一度でも肝炎に罹ったことがあると、身体に測定感度以下の肝炎ウイルスやその遺伝子が残っていて、免疫力が低下した際には再びウイルスが増加して重篤な肝炎を引き起こすことがあります(特にB型肝炎)。その為、抗がん剤療法や14日以上ステロイド投与を受ける場合には、自分の肝炎ウイルスの感染状態を調べて適切に対処しなければなりません。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00～17:00(要予約)

担当：中嶋